

税率についての意見

【免税点設定が望ましい】

- ① 5,000 円未満を低価格として免税としてはどうか。試算では8億円弱の税収を確保でき、導入時に見込んでいた7億2,000万円を上回る。北陸新幹線の延伸もあり、宿泊者数の増加が推測され、さらなる税収増も見込める。
- ② 免税点の設定に賛成する。金額の設定については、議論の余地がある。低価格帯の小規模宿泊施設の事業者への配慮、制度変更による特別徴収義務者の許容の度合い、税収減への影響の3点から考えて妥当ではないか。5,000円を免税点とすれば、7億9,600万円が確保できる。
- ③ 5,000円未満を免税とすれば丸く収まる。
- ④ 各委員から免税点に関する意見があったが、観光ではなく地域のためにビジネスで長期宿泊される方が一定数おり、5,000円未満で宿泊しているケースが多いように見受けるので、そのような宿泊者を意識した免税はあってもよい。

【見直しの時期ではない】

- ⑤ この5年間はコロナ禍により変動の激しい時期であり、もう数年経過すれば恒常的なデータが得られるので、見直しは待つべきではないか。

【100 円の設定が望ましい】

- ⑥ 5,000 円未満を免税とした場合 17%の宿泊者が負担をしないこととなり、課税の公平性の観点からは 100 円の税額の設定のほうが望ましい。

使いみちについてのご意見

- ⑦ 宿泊税がどう使われるかが大切であり、観光客の分散などオーバーツーリズムへの対策に活用すべきである。
- ⑧ 市内の宿泊施設の客室数が 14,000 室を超え、フル稼働になればコロナ禍前よりも入込客数が増えることから、その対策に活用するという観点が必要ではないか。例えば、市内の公共交通の充実に向けた対策費を念頭に置く必要はないか。
- ⑨ 宿泊税の問題点は、一般財源化して用途が不明確な点であり、このことにこれだけの財源が必要なので負担してほしいといった説明が望まれる。

検討会議の方向性

- ① 免税点を 5,000 円に設定し、5,000 円未満の宿泊は課税免除とする。
- ② 見直しの時期等については、市に対して、宿泊者数の動向や税収の見通し等の状況を見極めた上での判断を求める。
- ③ 税収の使途の方向性を明確にするよう求める。